
世界貢献

境康隆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界貢献

【Nコード】

N22630

【作者名】

境康隆

【あらすじ】

夫はいつも大きなことを言っていた。それは世界貢献――

「俺は偉くなって、世界に貢献するよ」

「その前に、会社で出世して欲しいけどね」

夫の大言に、妻はいつも同じ言葉で応えていた。

「何だよ。俺は本気だぞ」

「それは家計に貢献するようになってから言ってね」

そう、夫の稼ぎは少ない。それでもいつも大きなことを言う。

そんな夫を妻は嫌いではない。むしろ夫のこの大きな態度は、可愛くもあり楽しみでもあった。

「政治、経済。発明、発見。科学に、医学に、文学、倫理——世界貢献が必要なことで、世の中溢れているからね」

夫は世界貢献を語る。そして放っておくと、いつまでもその夢を語る

「医学の発展による人類への貢献。起業による雇用創出。新しい物理法則の発見。発明による生活苦からの解放。世界平和も必要だよな。飢餓をすくい、虐待を止め、犯罪を減らし、子供に夢を見させ、隣人を愛して——」

それでいて具体的なことは何も語らない。何しろ具体的に何をしたらいいのか、分からないからだ。

ましてや、夫がいちいち言葉に挙げる世界貢献を、一人でできるはずがない。どうにも言葉だけなのだ。

「はいはい」

そんな夫を妻は嫌いではない。むしろそんなところが好きだった。夫は本気なのだ。本気だけど、具体的に何をしたらいいのか分かってないだけなのだ。

悪い人ではない。だから妻はそんな夫が好きだった。

「それからだな——」

夫はまだ己の夢を語る。自分にできることが何か分からず、夢だ

け語る。

「それより先に、先ず私を幸せにしてね」

いつも妻のその一言で、やっと夫は自分のできることを思い出していた。

「私は子供が沢山欲しいな」

そう、稼ぎの少ない夫にできることなど、それぐらいしかなかった。

「お爺さん。大往生だったね」

孫が葬儀でポツリと呟いた。

「そうね。いつも夢ばかり語る、おかしな人だったわ」

老妻がその声に応えた。

夫はいつも夢のようなことばかり語っていた。世界貢献の話だ。何だか人類の問題に対する、全てのことを語っていたような気がする。

もちろん話だけだ。具体的には何もしていない。

それでも今際の際まで世界に貢献する夢を語っていた。

「ま、私は幸せにしてもらいましたからね。別に文句はないよ」

老妻は遺影に呟く。

その老妻をたくさんの子供や孫、ひ孫が取り囲んだ。

老妻が望んだ沢山の子供達。それを夫はかなえてくれた。それだけで充分だった。

「何だい。これだけかい？ 集まったのは？ 薄情なもんだ」

その大勢の親族を見て、それでも老妻は愚痴を一つこぼす。

「皆、忙しいもの。仕方がないよ。お婆さん」

最初に呟いた孫が、親族の意見を代弁する。

「いくら、忙しいからってね。お前」

「政治、経済。発明、発見。科学に、医学に、文学、倫理——世界貢献が必要なことで、世の中溢れているからね」

孫は祖母の肩にそっと手を添えると、

「皆飛び回って、世界に貢献してるよ」
祖父の遺影を見上げてそう続けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2263o/>

世界貢献

2010年11月3日17時32分発行